

令和8年度

研究部門教育科目シラバス

農業研究科
畜産研究科
2年生

鹿児島県立農業大学校

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|------------------|--|------|----|------|--|-----|-----|
| 授業科目 | 農業法人実務Ⅱ | | | 講師名 | 秋山 邦裕 (鹿児島大学名誉教授) 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授 | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 30時限 | 単 位 | 2単位 |
| 授業形態 | 講義方式&演習 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・農家・家族農業経営から農業法人経営への転換プロセスを実態的に学ぶ。 ・農業法人経営の企業形態別の特徴についてケース・スタディをもとに学び、形態選択の比較のポイントを理解する。 ・法人の経営管理について、項目ごとにポイントを実態的に把握する。 労務管理：雇用労働力調達、労働関係法規ポイント、研修生など マーケティング：市場調査・分析、市場開拓・顧客創造など イノベーション：技術革新（AI、ICT）、組織革新（事業提携）など 資金調達・管理：公的資金活用、資本金増資調達、クラウドファンディングなど 事業多角化：多様な事業展開、農村ビジネス・世界農業遺産、農福連携など | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 | 講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 ・パソコンプロジェクター使用 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | 第1～24時限（秋山名誉教授） <ul style="list-style-type: none"> ・農家経営（世帯・自然人）から農業法人経営への転換 ・企業形態の選択と組合せ：法人経営のケース・スタディ ・農業法人経営の管理手法：マネジメントの基本 ・農業・農村ビジネスの展望：新たな（空間）価値創造 25～30時限 <ul style="list-style-type: none"> ・講義レポートまとめ | | | | | | |
| 成績評価 | 意見発表（30点），出席状況（30点），学習態度・発表（40点） 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|----|------|--|-----|------|
| 授 業 科 目 | マーケティングⅡ | | | 講師名 | 豊 智行（鹿大学農学部教授） 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 30 時限 | 単 位 | 2 単位 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習方式，現地研修 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の流通の成り立ち，有利販売の理論的背景と方法について理解する。 ・実際のマーケティング活動を理解するため，先進事例等の調査研究をおこなう。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 講義演習内容に応じて各種プリント，教材を準備する。 （講師作成資料） 現地研修先資料（事前情報収集資料含む） | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <外部講師> 第1～12 時限 講義（豊教授） 流通の成り立ち <ul style="list-style-type: none"> ・流通の役割 ・流通機能 ・流通組織 ・農産物流通組織の規制要因 ・流通マージン 有利販売の理論的背景と方法 <ul style="list-style-type: none"> ・製品差別化 ・製品差別化のメリット ・製品差別化の手段と有利販売 ・市場支配力 ・市場支配力発揮の手段と有利販売 ・有利販売の方法 <内部講師> 第13～30 時限 マーケティング先進事例等の現地調査研究 講義・現地調査研究まとめ | | | | | | |
| 成 績 評 価 | 講義：レポート（80点），態度（20点）合計100点 講義，現地研修評価の平均で評価する。 評価項目は以下の通り 優：80 以上～100，良：70 以上～80 未満，可：60 以上～70 未満，不可：60 未満 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------------|---|------|----|------|--|-----|-----|
| 授業科目 | 農業税務論 | | | 講師名 | 木山 雅人（税理士） （税理士法人桜岳 所長） 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 30時限 | 単 位 | 2単位 |
| 授業形態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び達成目標 | 農業を営むのに必要な税金の種類と税務申告に必要な知識について学ばせる。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 ・パソコンプロジェクター使用 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>1～23 時限</p> <p>法律について（法源・法体系の概要・憲法における税） 所得税のしくみ 記帳や帳簿保存・青色申告 消費税のしくみ 贈与税と相続税の概要 農業簿記の勘定科目 日本国憲法 租税法律主義と租税平等（公平）主義 農業簿記における損益計算書の留意事項 農業簿記における貸借対照表の留意事項 相続税・贈与税のあらまし 農業法人について 社会保険のしくみ 経営継承について</p> <p>24～30 時限 レポートまとめ</p> | | | | | | |
| 成績評価 | <p>レポート等 100点</p> <p>優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------|--|------|----|------|---|----|-----|
| 授業科目 | 農業法規 | | | 講師名 | (農政課技術補佐) (農村振興課農地利用推進係) (農業経済課主幹兼金融係) (経営技術課経営体育成係) | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 15時限 | 単位 | 1単位 |
| 授業形態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び達成目標 | 農業者・農村リーダーの資質として必要な農業関係法令等を学ばせる。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 | 講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 | | | | | | |
| 授業スケジュール | 1～4時限 <農政課技術補佐> ・県の農業施策について ・農業関係法規について 5～8時限 <農業経済課金融係長> ・農業制度資金の概要及びその活用と留意点 9～11時限 <農村振興課農地利用推進係長> ・農地に係る法律について ・農業経営基盤強化促進法について ・地域計画について 12～15時限 <経営技術課経営体育成係・就農対策係> ・経営体育成，就農に係る農業関係法規について (認定農業者制度，支援措置等，経営改善計画など) | | | | | | |
| 成績評価 | 各講師のレポート，試験，態度等による評価（100点）の平均で評価する。 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------------|---|------|----|------|------------------------------------|----|-----|
| 授業科目 | 農業経営各論 | | | 講師名 | 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 30時限 | 単位 | 2単位 |
| 授業形態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営をとりまく環境に，どう対応するべきか理解する。 ・経営環境に合わせて，目標を実現できる経営戦略を理解する。 ・さまざまな情報を，経営活動にいかせる能力を理解する。 ・適切な作目選択と利益が最大化する原理を理解する。 ・農業経営の多角化，規模拡大の利点を理解する。 ・集团的取り組みや農業経営の法人化について理解する。 ・農業経営における適切な人材の確保と職場づくりを理解する。 ・農業経営において，気をつけるべきリスクとリスクにうまく対応できる方法を理解する。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 ・電卓，パソコン ・その他 | | | | | | |
| 授業スケジュール | <p>1～23 時限 農業経営のマネジメント 農業経営の目標，経営戦略，経営者能力，情報活用 農業生産のマネジメント 単一経営と多角経営 集約化と規模拡大 農業組織のマネジメント 農業経営者の集团的取り組み 農業法人経営 雇用労働力の活用 農業協同組合 農業経営におけるリスクマネジメント 農業経営がかかえるリスク リスクマネジメントの方法</p> <p>24～30 時限 優良経営体事例現地調査 レポート まとめ</p> | | | | | | |
| 成績評価 | 態度 (20 点) レポート (80 点) 計 100 点 優：80 以上～100，良：70 以上～80 未満，可：60 以上～70 未満，不可：60 未満 | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|----|------|---|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 農業・農村リーダー論 | | | 講師名 | 農大副校長 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 15時限 | 単 位 | 1単位 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | 農業・農村の振興を担うリーダーとして必要な知識や手法を学ぶ。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>1～8時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業・農村の組織について ・リーダーのあり方（様々なリーダー論）について ・リーダーに必要なスキルについて <p>9～12時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業をめぐる情勢とリーダーの役割について ・現地で活躍するリーダー <p>13～15時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習・レポートまとめ | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>講義：各授業態度，レポート等 100点</p> <p>優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p> | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|----|------|---|----|-----|
| 授業科目 | 地域農業振興論 | | | 講師名 | 坂井 教郎（鹿大学農学部教授） 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 30時限 | 単位 | 2単位 |
| 授業形態 | 講義・演習方式，現地事例研修 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・農産物・食料の需要と供給の法則と農産物価格の性格現状・動向など，多角的な視点から地域農業振興を理解する。 ・実際の地域農業振興活動を理解するため，産地づくり，6次産業化，地域農業支援施設等の地域農業振興に関わる取り組み事例の現地調査研究をおこなう。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 講義演習内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 （講師作成資料） 現地事例研修先資料（事前情報収集資料含む） | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <外部講師> 第1～12時限（坂井教授） イントロダクション 農産物・食料の需要と供給 需要・供給の法則と農産物価格の性格 経済多角化と6次産業化 6次産業化の歴史 甕島における6次産業化の取り組み そばによる6次産業化の取り組み <内部講師> 第13～30時限 産地づくり，6次産業化，地域農業支援施設等の地域農業振興に関わる取り組み事例の現地調査研究 講義・現地調査研究まとめ | | | | | | |
| 成績評価 | 講義： レポート（80点），態度（20点） 合計100点 講義，現地研修評価の平均で評価する。 評価項目は以下の通り 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満 | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|----|------|---|----|-----|
| 授業科目 | 農村地域活動実習 | | | 講師名 | 吉田 要（（一社）九州産業支援機構 代表理事） 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 45時限 | 単位 | 1単位 |
| 授業形態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び達成目標 | 地域連携を構築し新たな産業また人材の育成を行うノウハウを学び、農村地域の付加価値向上の為の行動戦略を実践的に思考し体験する。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 講義演習内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 (講師作成資料) | | | | | | |
| 授業スケジュール | <p><外部講師></p> <p>第1～30時限（吉田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村と農業に関わる事業リソースの学習 新しい地域創生の思考と今後の方向 事例を基に地域創生について理論学習 ・テンプレートを使い個々の活動計画書を作成 活動計画の作成実習 プレゼン法の学習（伝える技術、他） ・事業計画のプレゼン ・農村地域活動計画の総括 <p><内部講師></p> <p>第31～45時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村地域活動計画案作成（出身地をモデルに作成） 情報収集（HP，現地，各種情報誌）等 地域課題の整理 プレゼン資料案作成 ・まとめ | | | | | | |
| 成績評価 | <p>講義：プレゼン資料作成，発表（80点），態度（20点）合計100点 講義，実習の平均で評価する。</p> <p>評価項目は以下の通り 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|----------|----|------|--|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 教育概論 | | | 講師名 | 植村 秀人 (南九州大学 准教授) 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年 次 | 2年 | 履修時間 | 15時限 | 単 位 | 1単位 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | 農業・農村に関する教育指導を行うに必要な知識や手法を学ばせる。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 講義内容に応じて各種プリント, 演習教材等 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | 1～9時限 <ul style="list-style-type: none"> ・農業・農村と教育 ・社会変化と農業・農村 ・生涯学習と農業・農村① 地域における学習 ・生涯学習と農業・農村② 地域発展と学習 ・学校教育と農業・農村 ・教育計画と農業・農村 農業・農村の発展と学校教育との関係を理解する。 ・KJ 法的手法を学ぶ 10～15時限 <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成・まとめ | | | | | | |
| 成 績 評 価 | 講義：授業態度, レポート等 100点 優：80以上～100, 良：70以上～80未満, 可：60以上～70未満, 不可：60未満 | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|-----|------|--------------------------------------|-----|------|
| 授 業 科 目 | 最新農業技術論 | | | 講師名 | 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2 年 | 履修時間 | 15 時限 | 単 位 | 1 単位 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | 農業の生産性を飛躍的に高めるAI, ICT, ドローン等, 発展著しい先端技術の実例を学び, 中長期的視点で基礎的・先導的な最新農業技術の現場への応用・実践ができる資質・能力を高める。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。 ・インターネットを活用する。 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>1～8 時限 最新試験研究開発成果調査 AI, ICT, スマート農業, 気候変動対策など最新農業技術について理解する (農業開発総合センター試験研究成果発表会)。</p> <p>9～15 時限 農業・畜産分野での事例調査研究 まとめレポート</p> | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>講義：授業態度, レポート等 100点 優：80 以上～100, 良：70 以上～80 未満, 可：60 以上～70 未満, 不可：60 未満</p> | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|-------------------|---|------|----|------|--------------------------------------|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 農村調査論 | | | 講師名 | 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 15時限 | 単 位 | 1単位 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <p>・農業, 農村を調査する上で必要な情報の収集・整理・分析力を高め, 将来の就農及び農村リーダーとしての知識・資質向上を図る。</p> <p>・農村調査を行う上でのチームづくり, 調査チーム編成とリーダー, チーム員の役割分担の重要性を理解する。</p> <p><農村調査論, 農村調査演習, 地域農業調査研究は関連させて実施する。></p> | | | | | | |
| 使用教材 ① テキスト・教材 | 講義演習内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>1～8時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村調査の流れ ・農村調査の取り組み方法 ・情報(データ)収集の方法 ・情報システムの作成と情報の活用方法 ・視察調査の目的, 手順 ・情報収集(演習) ・まとめ <p>9～15時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村調査優良事例研究 ・調査チーム編成とリーダー, チーム員の役割分担の必要性 ・調査計画書, 調査方法, 報告書作成の方法 ・まとめ | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>態度(20点), レポート(80点) 合計100点</p> <p>評価項目は以下の通り 優: 80以上～100, 良: 70以上～80未満, 可: 60以上～70未満, 不可: 60未満</p> | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|------------------|---|------|----|------|--------------------------------------|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 農村調査演習 | | | 講師名 | 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 15時限 | 単 位 | 1単位 |
| 授 業 形 態 | 演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <p>・演習をとおして, 農業, 農村を調査する上で必要な情報の収集・整理・分析力を高め, 将来の就農及び農村リーダーとしての知識・資質向上を図る。</p> <p>・演習をとおして, 農村調査を行う上でのチームづくり, 調査チーム編成とリーダー, チーム員の役割分担の重要性を理解する。</p> <p><農村調査論, 農村調査演習, 農村地域活動実習は関連させて実施する。></p> | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 | 講義演習内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>1～4時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村調査に係る調査演習 情報の収集・分析・整理・ストック・活用方法 <p>5～15時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業・農村・食料・環境に関する情報システムの作成 ・地域農業事例調査先の情報システムの作成 ・まとめ | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p><農村調査演習> 態度(20点), 現地計画書・レポート(80点) 合計100点</p> <p>評価項目は以下の通り 優: 80以上～100, 良: 70以上～80 未満, 可: 60以上～70 未満, 不可: 60 未満</p> | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|---|------|----|------|------------------------------------|-----|-----|
| 授業科目 | 経営計画演習Ⅱ | | | 講師名 | 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 75時限 | 単 位 | 5単位 |
| 授業形態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <p>農業経営計画に必要な会計による農業マネジメントの応用的内容を理解し「稼ぐ力」の向上に資する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営における会計と簿記の重要性を理解する。 ・会計・簿記を活用した農業のマネジメントを理解する。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | <p>① テキスト・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業簿記検定3級教科書，問題集，過去問 ・農業簿記検定2級教科書，問題集，過去問 ・講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。 ・電卓，パソコン・その他 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>1～8時限 <演習>簿記と農業経営計画（応用）</p> <p>9～23時限 <演習>財務諸表分析（応用）</p> <p>24～38時限 <演習>原価計算（応用）</p> <p>39～53時限 <演習>損益分岐点分析（応用）</p> <p>54～68時限 <演習>利益計画（応用）</p> <p>69～75時限 まとめ</p> | | | | | | |
| 成績評価 | <p>演習レポート80点+演習取組態度20点 計100点</p> <p>優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p> | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|---|------|----|------|------------------------------------|-----|------|
| 授業科目 | 研究論文（卒業論文） | | | 講師名 | 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履修学科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 180 時限 | 単 位 | 6 単位 |
| 授業形態 | 講義・演習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | 派遣研修等における研究成果を研究論文としてまとめ，就農後の栽培管理，飼養管理技術等に活用する。派遣研修先と連携しながら，研究生が主体的に研究論文を作成することを目標とする。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 「研究論文作成要領」 講義内容に応じて各種教材を準備する。 他過去の研究論文，試験研究機関論文等の事例 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>第 1～2 時限 論文作成の要領</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに基づく論文作成フローを解説する（予備：1年次にも逐次行っておく） <p>第 3～4 時限 論文の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文の書き方について事例を含めた解説，文献収集活用方法 <p>第 5～135 時限 論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣研修における「研究計画」の成果を「研究論文」として体系化してまとめる。 論文作成に対する情報提供及び指導助言 <p>第 136～150 時限 研究論文発表会資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例紹介。論文に基づき，プレゼンテーションソフト「パワーポイント」で発表資料を作成する。 <p>第 151～165 時限 研究論文発表会（7月下旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究論文発表会リハーサル，発表会 <p>第 166～180 時限 研究論文提出用作成（1月中旬）</p> | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>学習態度</p> <p>研究論文内容等の審査（内容・理解度・知識）</p> <p>研究論文発表会の審査（発表内容・表現方法・質疑対応・時間）</p> <p>評価点（学習態度：30，研究論文：40点，発表会：30点）</p> <p>優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満</p> | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|------------------|---|------|----|------|--------------------------------------|-----|------|
| 授 業 科 目 | 地域農業調査研究 | | | 講師名 | 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 60 時限 | 単 位 | 4 単位 |
| 授 業 形 態 | 演習, 現地調査 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <p>・農業・農村の実態及び活性化事例等の現地調査を実施し報告書としてとりまとめ発表することで, 地域農業・農村振興の方策づくりの手法等を研究する。 (農村調査論, 農村調査演習で作成した調査計画書に基づき現地調査を実施し報告書を取りまとめ発表する)。</p> <p>・調査対象: 産地育成, 村づくり, 環境保全 (病虫害, 土づくり, 肥料), 地産地消, 異業種連携, グリーン・ツーリズム, 優良経営体, 地域農業支援施設等</p> <p><農村調査論, 農村調査演習, 地域農業調査研究は関連させて実施する。></p> | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 | 講義演習内容に応じて各種プリント, 演習教材を準備する。 ①現地研修先資料 (事前情報収集資料含む) | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>1~45 時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査チーム編成とリーダー, チーム員の役割分担の決定 (演習) ・調査方法の検討 (演習) ・調査先の情報まとめ (演習) ・調査項目, 調査様式の検討・作成 (演習) ・現地調査計画書作成 (演習) ・事前検討会でのプレゼン, チーム意見集約 (演習) ・現地調査の実施 <p>46~60 時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査報告書の取りまとめ (報告書, プレゼン資料作成) ・報告会 ・まとめ | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>現地調査態度 (10点) 報告書 (50点) 及び報告会 (40点) 合計100点</p> <p>評価項目は以下の通り 優: 80 以上~100, 良: 70 以上~80 未満, 可: 60 以上~70 未満, 不可: 60 未満</p> | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|----|------|--|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 専攻ゼミ（派遣研修） | | | 講師名 | 派遣先（試験研究機関等） 農大農業研究科教授，非常勤教授 農大畜産研究科教授，非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 405時限 | 単 位 | 9単位 |
| 授 業 形 態 | 講義・実習・ゼミ方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | 1年次からの継続研修として実施する。派遣研修全体計画では，試験研究機関等の派遣先の研修を主とし，関連する産地・農家先進事例調査，流通調査等を合わせて実施する。成果については，研究論文は「研究論文カリキュラム」の中で卒業論文としてまとめる。派遣研修全体については，派遣研修報告書としてまとめる。 | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | 「派遣研修報告書作成要領」 「派遣研修報告会実施計画案」 「研究論文作成要領」 「講義内容に応じて各種プリント，演習教材を準備する。」 | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | 第1～405時限 派遣研修の実施 (1)試験場等研究機関，農業関連機関，農業法人 (2)産地・農家先進事例調査 (3)流通調査（市場流通研修） (4)その他 | | | | | | |
| 成 績 評 価 | 派遣研修評価書70点 派遣研修報告書・派遣研修報告会30点 合計100点×80%＝専攻ゼミ評価80点 優：80以上～100，良：70以上～80未満，可：60以上～70未満，不可：60未満 | | | | | | |

※実務経験のある教員等による授業科目

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|------|----|------|--|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 専攻ゼミ (指導実習) | | | 講師名 | 養成部門 1年担当教授等 農大農業研究科教授, 非常勤教授 農大畜産研究科教授, 非常勤教授 | | |
| 履 修 学 科 | 農業研究科 畜産研究科 | 履修年次 | 2年 | 履修時間 | 90時限 | 単 位 | 2単位 |
| 授 業 形 態 | 演習・実習方式 | | | | | | |
| テーマ及び 達成目標 | <p>「派遣研修」で培った知識・技術を養成部門の学生に対し指導実践する。</p> <p>事前演習として、養成部門学生との交流を深め相互の技術交換する機会を設ける。指導実践については実技指導・講義指導を行い、その過程で指導方法を実践的に学ぶ。実習結果(成果)について、指導のあり方をゼミ形式で報告研究する。</p> | | | | | | |
| 使用教材 ①テキスト・教材 ②参考文献 | <p>「指導実習(専攻ゼミ)の進め方」「指導実習(専攻ゼミ)マニュアル」</p> <p>普及指導・普及方法等マニュアル, 青少年指導マニュアル等参照</p> <p>必要に応じて各種プリント, 演習教材, プロジェクターを準備する。</p> | | | | | | |
| 授 業 スケジュール | <p>事前オリエンテーション</p> <p>第1～15時限 指導実習実施方法の検討, 全体実施計画案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前演習, 指導実習の進め方について ・養成部門との計画調整(対象品目の選定, 事前演習の作成) ・指導実習全体実施計画案の作成 <p>第16～38時限 専門部門別事前演習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前演習計画に基づく演習 <p>第39～45時限 事前演習結果のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前演習経過の整理および成果のまとめ ・指導実践(実技・講義)のための課題整理 <p>第46～53時限 指導実施案の作成(作成要領, 指導案の作成)</p> <p>第54～75時限 部門別指導実習の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に基づく実践(実技指導実習, 講義指導実習) <p>第76～87時限 指導実習報告書の作成</p> <p>第88～90時限 指導実習(結果)研究ゼミ(評価検討)</p> | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>事前演習30点 指導実習40点 指導実習報告書・研究ゼミ30点</p> <p>優: 80以上～100, 良: 70以上～80未満, 可: 60以上～70未満, 不可: 60未満</p> | | | | | | |